



京都外国語大学

Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学

Kyoto Junior College of Foreign Languages

2024-2028

第3期5年計画

The 5-year Plan : Third Stage

「異なる」を愛せる世界をつくる

本学の創立は1947年です。第二次世界大戦により国土が荒廃する中、何よりも願われたのは世界平和でした。その実現には、諸外国との対話を通じた相互理解が必要であり、外国語教育こそが日本に求められるものであるとの理念により設立されました。

当時、創立者の抱いた希望は、現在「Pax Mundi Per Linguas – 言語を通して世界の平和を –」という形で、本学の建学の精神として結実しています。地道な対話により諸外国との相互理解を築き、それにより世界平和を実現するという力強い意志は、未来の世代へと繋いでいかなければならない本学の使命です。

本学では、本年、第3期5ヵ年計画を策定し、それとともに『異なる』を愛せる世界をつくる』という大学のブランドビジョンを掲げました。これは、世界平和という究極的な目標の実現に向け、今、本学が為すべきことは何かを問い、具体化したものです。本学の原点は外国語教育ですが、「異なる」は国籍に限らず、民族、宗教、文化、ジェンダー、世代、ハンディーキャップなどもその1つでしょう。先を見通すことが難しいVUCAの時代において、「異なる」ことを各々の個性として生かすことができたとき、多くの問題について平和的観点から、解決の糸口が見えてくるのではないかと思います。本学が、次の100年に向けて、社会においてリードしなければならない価値観が形になっています。

第3期5ヵ年計画の実現に向けてのご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事長・総長 **堀川 徹志**

2022年に創立75周年を迎えた本学は、続く100周年を見据え、第3期5ヵ年計画を策定いたしました。この計画は、大学の更なる発展と継続的な成長を促進するために不可欠なものです。

現在、コロナ禍以降の海外志向の低下や少子化、AIの進化による外国語習得の意欲低下など、外国語大学が厳しい状況に置かれています。このような状況下で、私たちは本学が持つ理念と価値を堅持しつつ、新しい創造力を持って新しい伝統を築いていかねばなりません。

第3期5ヵ年計画の始動にあたり、まずは私たちの変わらぬ原点である建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS – 言語を通して世界の平和を –」に立脚し、京都外国語大学が目指す未来を言語化いたしました。それが『異なる』を愛せる世界をつくる』というブランドビジョンです。このブランドビジョンのもと、変化の激しい時代の中で、これからも色褪せない強い魅力を発揮できる京都外国語大学ならではの価値を教職員一同で創造してまいります。

第3期5ヵ年計画の実現は容易なことではありませんが、共通の目標と信念のもと、一歩ずつ着実に進んでいくことが重要です。皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

学長 **小野 隆啓**



京都外国語大学

Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学

Kyoto Junior College of Foreign Languages

2024-2028

第3期5ヵ年計画の骨子

Outline of The 5-year Plan: Third Stage 2024-2028

教学と経営のバランス

創立百周年を見据え、建学の精神「Pax Mundi Per Linguas—言語を通して世界の平和を—」を時代に即したメッセージへ再定義しつつ、理念体系を再定置し、本学の建学の精神を体現する人材を育成し続けることが求められています。

そのためには、複雑な社会変動に適応進化するための人材育成に資する「教学体制」と、これを支える自律的な「組織体制」の両輪の整備が必要となり、独自性のある経営体制の確立に向け変化にチャレンジする必要があります。

■目標と運営方針

学長方針である「伝統創出への新たな創造」を受けて、創造力発揮に向けた推進体制を構築します。その基礎となるのが、本学の建学の精神に基づく新たなブランドビジョン「『異なる』を愛せる世界をつくる」を踏まえた以下の運営方針です。

基本運営方針 『壁を突破し、新しいつながりを創出』

学内のインナーコミュニケーションを活性化し、様々な障壁を克服し、教職員が『自分事』として大学の将来を考える意識を高めていきます。それにより質の高い業務を創造し、教職員が一丸となって地元である京都及び海外との交流をより活発にしていきます。



京都外国語大学

Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学

Kyoto Junior College of Foreign Languages

建学の精神

School Philosophy

PAX MUNDI PER LINGUAS

—言語を通して世界の平和を—

教育理念

Educational Philosophy

国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成

基本運営方針

Basic Management Policy

壁を突破し、新しいつながりを創出

ブランドビジョン

Brand Vision

「異なる」を愛せる世界をつくる

京都外国語大学・京都外国語短期大学は、
『第3期5ヵ年計画 2024-2028』を、[4つの活動指針]のもとで推進します。

■ 4つの活動指針

I. ブランドビジョンの浸透と活動

京都外国語大学・短期大学ブランドの確立と学内への周知徹底の仕組み(インナーコミュニケーション)及び学内外への総合的な広報戦略に基づく実施体制の確立。

II. 京都とのつながりの再構築 (京の輪と世界の和)

ステークホルダーとしての京都と敬意をもって向き合い、京都と世界をつなぐハブになることについての戦略的立案と運用方法の確立。

III. 京都外国語大学・短期大学『教育』モデルの構築

科学的思考に基づく「複言語・複文化主義」、「多文化共生実現力」を確実に修得するための教育コンテンツ開発と運用体制の構築。

IV. 業務の効率化 (DX化による組織設計と運用)

自分たちが取り組むべき必要な業務の洗い直しとそれを効率的に実行するための組織の再設計によるDX推進体制の確立。



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

2018-2022

第2期 5ヵ年計画の総括

Summary of The 5-year Plan: Second Stage 2018-2022

ビジョン：真の Global University への進化・深化

目標：社会的信用を確実に持続できる大学運営を行うための基盤強化

- 3つの重要政策：1. 外国語学部・国際貢献学部・短期大学のカリキュラム改訂
および大学院の再構築
2. 内部質保証システムの確立
 3. 大学の重点政策の明確化と骨太の大学運営

1. 外国語学部・国際貢献学部・短期大学のカリキュラム改訂および大学院の再構築

(2024年度以降の学部新カリキュラムの特長)

Point 1 英米語学科内にダイヤモンドコースを開設

外国語学部英米語学科では、経営学・経済学やデータ科学といった VUCA 時代が求める素養を培う科目群に加え、海外の協定大学への学部留学も必修化した「DIAMOND Course」を開設します。進路として、外資系を含む有名企業や外務省専門調査官・外交官、世界ランキング上位の国内外有名大学院などを目指し、世界が求める人材に育て上げ、社会に羽ばたいてもらいます。

※1年次終了時に優秀な成績を修めた20名を選抜して編成。

※一定の条件を満たせば2年次より最大3年間の学費を全学免除。

磨けば光る原石だ

君たちは

最大3年間、学費免除！
英米語学科
ダイヤモンドコース
2024年4月スタート！

京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

Point 2 キャリア形成につながるカリキュラム

「誰一人迷子にしない」

自分らしい人生と理想の未来が描ける

9つの領域から成るリベラル・アーツ（教養教育）を「全学共通科目」として全学的に展開します。授業科目数・内容を厳選し、シンプルで分かりやすい構成にすることで、学生一人ひとりが学びを深めたい分野やめざしたい道を見つけ、履修モデルに沿って進みやすいカリキュラムを実現しました。また、初年次からのキャリア教育・支援をはじめ、各学部・学科とキャリアセンターが密接に連携し、全学一体で学生の希望と適性に応じたキャリア形成を後押しします。

ビジネス・キャリア 「経営学入門」 「経済学入門」 「会計学入門」	サイエンス・テクノロジー 「データ科学入門」 「AIと人間」 「防災の科学」	教育 「多文化理解と人権」 「リーダーシップ概論」 「教育の課題」
政治・平和 「国際平和協力論」 「平和・安全保障論」 「模擬国連会議」	京都・日本 「京都文化論」 「京都の伝統文化」 「もっと京都プロジェクト」	国際社会 「世界の歴史と文化」 「世界文化と多様性」 「異文化理解研究」
言語 「言語の成り立ち」 「2言語同時学習」 「バイリンガルの言語形成」	人文 「現代社会の見方」 「現代文化論」 「倫理学」	スポーツ 「健康科学の実践と理論」 「スポーツと国際交流」 「スポーツとまちづくり」

Point 3 語学の枠を超えた学び

「外国語大学から DX・AI 人材へ」

データ科学や XR 技術もしっかり学べる

異文化を理解するための教養に加え、情報の収集・発信など言語を生かすためのツールとしてデジタル技術の修得に注力します。国際貢献学部では XR 技術を修得するための科目を設けており、その素養として欠かせない「データ科学」を全くのゼロから学ぶべく、データ科学関連の授業を必修化しました。また、データ科学や AI にかかわる科目を「全学共通科目」の中に設置し、外国語学部においても学びを深め、DX・AI 人材としての素養を培います。DX・AI に関わる授業科目（抜粋）

国際貢献学部	全学共通科目
・ Digital Literacy	・ データ科学入門
・ Digital Citizenship and Engagement	・ eSports Fundamentals
・ Game, Interaction, and Experience Design	・ Introduction to Immersive Technology



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

- ・ Immersive Technology Workshop
- ・ メディアリテラシー論
- ・ Statistics (グローバルスタディーズ学科)
- ・ データ科学 I・II (グローバル観光学科)

Point 4 多文化共生社会への貢献

「安心を届ける言葉のプロに」

外国人住民を支えるコミュニティ通訳

言語の障壁があるために医療、教育、社会福祉、行政、司法などの公的サービスにアクセスできない外国人住民を支援する「コミュニティ通訳」を育成するための専門科目を新設します。一定の条件をクリアすれば、卒業時に『ISO13611:2014 通訳-コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書が授与されます。

※対象言語：英語、ポルトガル語、中国語、ロシア語

(大学院の再構築)

博士前期課程においては、令和4(2022)年度に大学院博士前期言語文化コースに新たに観光文化研究領域を設置し、5名の入学者を迎えました。現在、ロシア事情を専門とする高度人材を育成するための領域の開設を準備しています。

2. 内部質保証システムの確立

令和3(2021)年度に内部質保証を推進する組織体制及び関連する諸規程・方針を整備し、大学全体レベル、教育課程レベル、授業科目レベルでPDCAを回す仕組みを構築しました。それに合わせて、「全学的自己点検・評価」と「学部・研究科等別自己点検・評価」から成る自己点検・評価の実施方法を確立し、同年より毎年、自己点検・評価を実施しています。また、「全学的自己点検・評価」の結果は、産業界を含めた外部評価委員による外部評価を毎年行っています。

全学的自己点検・評価

点検項目	<ul style="list-style-type: none">① 事業計画(5カ年計画アクションプラン含む)② 認証評価機関が定める評価基準・項目を準用③ アセスメント・ポリシーに基づく学修成果④ ガバナンス・コード遵守状況
------	--

学部・研究科別自己点検・評価(短大は学科別)

点検項目	<ul style="list-style-type: none">① アセスメント・ポリシーに基づく学修成果② カリキュラム・マップを用いた教育課程の体系性③ シラバス④ 教職課程(短大は除く)
------	---

教育の質については、令和4(2022)年度にアセスメント・ポリシーを策定し、三つのポリ



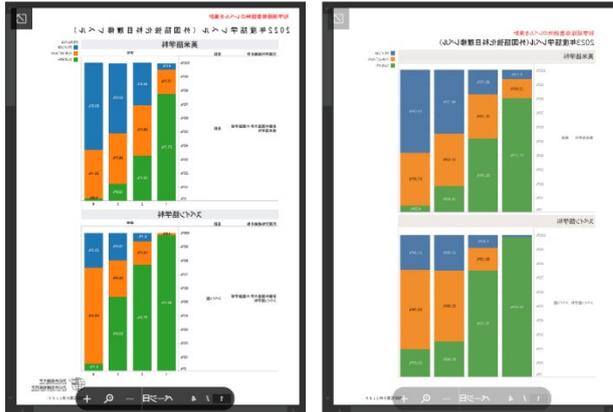
京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

シーの達成状況、学生の学修成果及び本学の教育効果について、多様な尺度・指標や測定方法に基づいて点検・評価を行えるようになりました。可視化した学修成果は、ホームページに開設した IR サイトに集約して学内外へ積極的に公開しています。

学部・短期大学

語学レベル（外国語強化科目履修レベル）



また、自己点検・評価及び学修成果については、ホームページ「内部質保証」において公開しています。

<https://www.kufs.ac.jp/about/evaluation/evaluation.html>

以上のような内部質保証システムを確立した結果、令和 5（2023）年度の大学機関別認証評価で「適合」認定を受け、本学の内部質保証の取組みについて「優れた点」として評価されました。

3. 大学の重点政策の明確化と骨太の大学運営

中期的な計画に基づき実行力のある大学運営を行うため、令和 3（2021）年度より第 2 期 5 ヶ年計画を単年度の事業計画に落とし込み、毎年度、事業計画を中心として PDCA サイクルを回す仕組みを構築しました。また、事業計画には、重点事業計画（学長方針、第 2 期 5 ヶ年計画重要政策、自己点検評価結果判明した全学的課題、学園施設整備、IT 化・働き方改革）を設定して、大学の重点政策の明確化を図りました。さらに、事業計画と予算を連動させて計画の実現力を高めるため、各部署・学部等から計画が立案された段階で大学が計画を精査（計画及び予算の優先順位を付ける）し、その結果を法人・財務部と共有するようになりました。

この運用方法をはじめて 2 年目となる令和 4（2022）年度事業計画の予算承認率は、重点事業計画は 82.6%、重点以外の計画は 22.7%でした。（金額ベース）



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

また、同年度事業計画の自己点検・評価結果は、計画の目標を達成していると判断できる「S」及び「A」評価の割合は、重点事業計画では 71.9%、重点以外も含めた計画全体では 78.2%でした。